

昭和四十四年度

故 朝 飛 師 範 健 ぶ

稻 波 唯 弘

早いもので卒業しましてから七年、同期生が顔を合わせる機会は、仲間の結婚式くらいしかありませんが、皆が集まるとき、毎回、新郎、新婦は、そっちのけで、学生時代の思い出話に熱中し、知らぬ間に、披露宴が終っているという有様です。

四年間の学生生活を振り返ると、いろいろな出来事が脳裏に浮んで来ます。三年の時、東京大会で仇敵専修を破つて晴れて全国大会に出場した事、早慶戦での苦い敗戦、日吉の合宿所生活等……。しかし、一番忘れ難いのは、私達が四年の時の、あの朝飛師範の逝去であります。師範は、昭和四十三年の夏頃から膝の具合が良くなく、その頃は痛風という様にお聞きしておりましたが、四十四年を迎えると道場では、あまり、お顔を見る事が出来ない程になつておられました。一度入院され、手術後には、お元気な御様子でしたが、退院されてから、一番大切にして頂かねばならない時に、私達柔道部員の為に、道場にお出になり、稽古着を着て指導されたり、合宿所に牛乳や卵の差入れにわざわざおいで頂いたり、ある夜などは、師範のお宅にお見舞に伺えば、始終腹を空している私達の為に、逆に食事に連れ出させてしまつたり、とにかく、私達柔道部員の為に、否、慶應義塾体育会柔道部の為に、御自身の健康をもかえりみない、たとえ肉親でも及ばない程の暖い御慈愛をかけられました。その為、師範は、再入院、危篤、という最

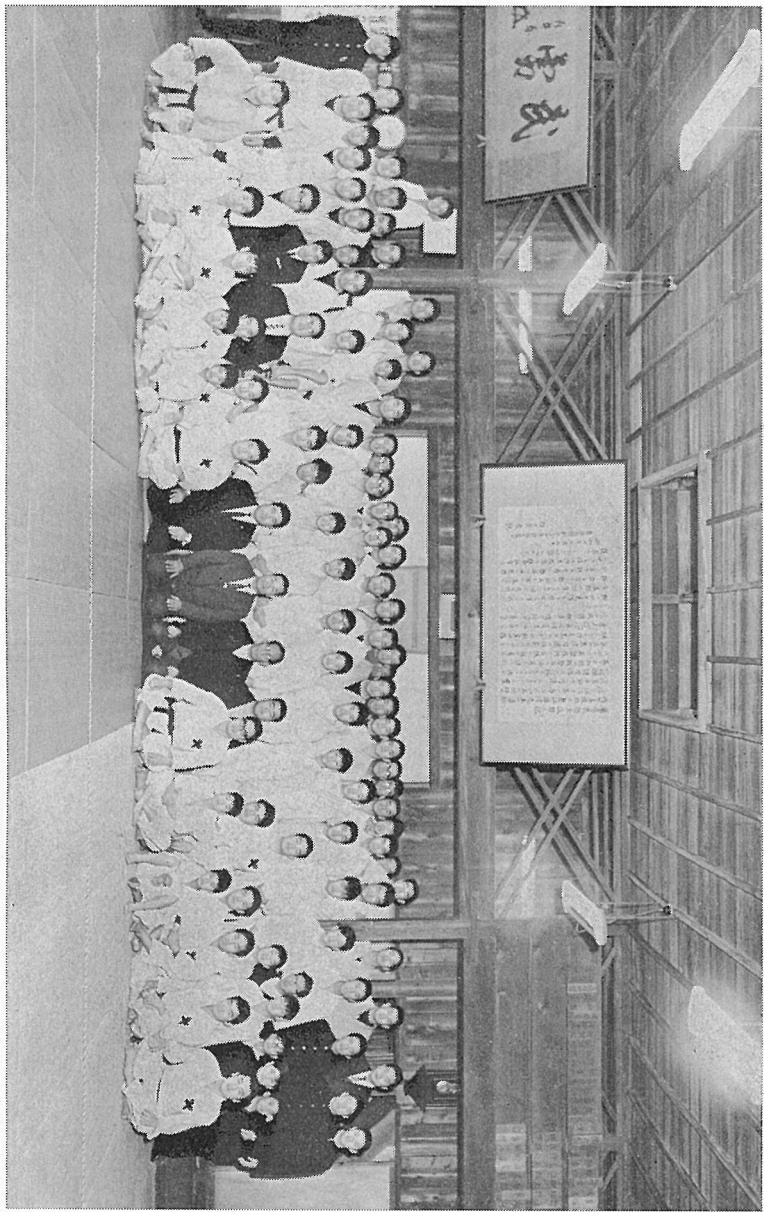
悪の事態を迎える事になってしまったのです。

六月二十日の夜、危篤の報を聞いて多くの人達が病院に詰めかけました。塾柔道部員は勿論、塾関係の人達、神奈川県警の関係者達、朝飛道場の人達、師範の学生時代の友人の方々。それは、師範の人柄を慕う人達でした。師範の別人の様な瘦せられた寝顔を見守るうち夜が明け、翌二十一日の朝、全員の必死の祈りにも拘らず、永遠の眠りにつかれました。

この事は、私達にとって親を亡くした時と同様と言つても過言ではない位の非常なショックと悲しみであります。六月の梅雨空があんなに重く、のしかかって来る様に感じられた事もありませんでした。

思えば、私達は一様に師範の薰陶を受けていました。師範の柔道の試合を拝見した事はありませんが、真向から勝負を挑み、正々堂々とした試合態度であった事は、諸先輩のお話からお聞きしておりますし、拓大在学中、練習で、あの木村政彦先生に投げ続けられて、とうとう一度も投げる事が出来なかつたというお話や、ある試合で、必死に相手を絞め技で攻めていた所、気がつくと小指一本で絞め落していったというお話等々……。

師範からお聞きして今でも、頭の中に残るお話は、少なくありません。師範は、氣力のない態度を嫌われた。負けでも、攻め続け、氣力溢れる試合であれば、逆に誉められた事もありました。立技で簡単に一本極めるよりも、寝技で苦労して取つた一本の方が価値が有ると、常々言つておられました。誰に対しても、その態度は、變るところなく、いつも、非常に謙虚で、おられました。私達は、謙虚な努力こそが、眞の力と自信になる事を学びました。卒業後、二年程経つて、私が、ある非常に困難な仕事の問題に直面した時の事です。問題の解決と今後の方針の決定に関して徹夜で取組んでいるうち、知らぬ間に机の上で、うたた寝をした時、誰かが外から“ドン、ドン”とはげしく窓をたたく音と共に、“頑張れ！ 頑張れ！”というあの聞き慣れた、懐しい師範の声が聞えるではありませんか。は



昭和四十四年卒業生送別記念

つとして、机から顔を上げ、窓を開け、外を見ましたが、そこには、誰も居ず、ただ、六月の梅雨の雨がはげしく降つてゐるだけでした。頂度、師範の二回忌の朝でした。

私達は、幸せだと思います。芳しい戦績を残す事は、出来ませんでしたが、清水師範、佐藤師範と共に、故朝飛師範の人格に触れ、良き先輩、良き友人に恵まれました。

卒業に際して、同期会の名前を清水師範から「君たちには、世に絶えてない良いものが三つもある」という事で、『三絶会』と名付けて頂きました。三つのものとは、

- 一、慶應義塾に学んだ事
- 二、柔道を通じて培った友情

三、健全な心体

という意味です。

私達は、永久に朝飛師範のお亡くなりになつた日の悲しみと、『三絶会』命名の感激だけは、忘れる事が出来ないと思ひます。

そして、苦しい時は聞えて聞ます。

『やらにアいかん、頑張れ！ 頑張れ！』のあの声が。

師部 役員

志木高校監督	体育会専任委員	学連委員	日吉高校監督	〃	幹	副	主	監	阿清	佐清	氣清
				〃	瀬戸	松田	岡	稻宮	稻	水藤	水賀
				〃	葉	中山	屋口	葉村	田	本波	部
				〃	芳	直正	清	光敏	田	水	藤
				〃	圭	正清	昌	直信	弘助	大直	正健
				〃	順	彦憲	秀彦	郎宏彦	新一	臣毅	一三
				〃	隆	彦	彦	雄	弘	臣毅	一三
				〃							

羽藤松高田牛古瀬戸松田岡稻宮稻阿清佐清氣
 鳥原葉橋中山屋口葉村田田本波部水藤水賀
 芳直正清光敏昌直信圭唯大直正健
 順隆彦憲秀彦郎宏彦雄昂新一弘助臣毅一三

寒 稽 古

普通部監督	渡辺和男
中等部監督	加藤陽治
幼稚舎監督	山本隆
合宿所主務	大川康治

昭和四十四年度寒稽古は一月六日(月)から十九日(日)までの十四日間、午前五時三十分から七時まで、三田綱町道場において行われた。

皆勤証は百十六名。

幼稚舎 益田 以下 二十三名。

普通部 高松 以下 九名。

中等部 竹内 以下 四名。

日吉高校 中川 以下 十一名。

先輩 芳賀 以下 四十二名。

児玉一男、石渡英二、成毛英臣、広瀬久

也、山際正明、奥田清一、阿部大助、豊永

勝、金成弘之、清水英範、高田幸人、曾根

功、津隈良平、太田浩典、大島拓太郎、杉

浦潤、山本茂雄、友田義輔、永田武二

郎、塚田正昭、野口和志、成毛雅臣、清水

正敬、滝沢綠郎、森得之輔、朝倉秀樹、堀

信孝

先輩努力賞 山際正明

十五年連続皆勤証 杉浦潤

横浜市高校新人戦 (日吉高校)

一月二十六日、神奈川県立武道館において行われ、日吉高校から有段の部に九名、無段の部に二名出場し、有段の部で中川が、無段の部で渡辺が優勝した。

関西・広島遠征記録 (日吉高校)

日吉高校は関西、広島に遠征し、三月二十日から三十日までに各地で交歓試合を行った。

対修道高校対抗試合 三月二十日 於 修道高校

(第一試合)

日吉高校 2 — 6 修道高校

先鋒 ○ 綱 島

逆手 先鋒 大 迫

優勢 横四方

支釣込足

○ 村 田 宮 坂

根 本 中 島 下 田

引 分

日吉高校

2 — 6

修道高校

(第二試合)

三月二十一日 於 修道高校

対崇徳高校対抗試合

三月二十一日 於 修道高校

先鋒 石 川 日吉高校

0 — 7 崇徳高校

根 本

引 分 優勢

先鋒

山 肩 田 蔵 岸

(第二試合)

3 — 4 修道高校

先鋒 石 川 日吉高校

引 分 先鋒 上 方 四 方

副将 ○ 綱 島 牧 野

引 分 大 将 崩 横 四 方

大将 ○ 作 道 伊 藤

引 分 大 外 刈

副将 ○ 長 谷 川 牧 野

引 分 十 字 固 優 势

副将 ○ 伊 島 本 田

引 分 上 平 田

副将 ○ 若 宮 伊 島

引 分 遠 山 伊 島

副将 ○ 岡 本 伊 島

引 分 盛 植 伊 島

副将 ○ 今 坂 伊 島

引 分 大 将 伊 島

副将 ○ 作 道 伊 島

引 分 合 技 伊 島

副将 ○ 遠 山 伊 島

引 分 大 将 伊 島

副将 ○ 伊 島 伊 島

引 分 合 技 伊 島

副将 ○ 丸 子 伊 島

引 分 盛 植 伊 島

副将 ○ 平 田 伊 島

引 分 渡 辺 伊 島

副将 ○ 四 方 伊 島

引 分 手 腰 伊 島

副将 ○ 田 子 伊 島

引 分 植 伊 島

先鋒 綱島 日吉高校	0 引分 先鋒 桜井	3	三月二十一日 於 福山電波高校	(第一試合)		(第二試合)	
				大將○作道	副將○牧野	大將○伊藤	副將○長谷川
橋本	長谷川	根本	伊藤	橋本	長谷川	木村	伊藤
日吉高校	日吉高校	日吉高校	日吉高校	日吉高校	日吉高校	山村	藤下
0	—	2	—	6	—	2	—
引分		大内刈	上四方	跳腰	大外刈	合技	引分
先鋒		優勢	鶏絞	大將○渡	副將○竹	背負投	先鋒
桜井		内股	体落	○山肩	○南	○江	○藤下
福山電波高校		内股	先鋒○山	○小	○江	○小	○藤下
		大外刈	○山	○清	○南	○水	
		副將○渡	○竹	○南	○清	○水	
		大將○江	○藏田	○林	○林	○林	
		副將○村	○本	○本	○本	○本	

副將 作道 橋本 長谷川	先鋒 綱島 牧野 日吉高校	0 引分 先鋒 桜井	三月二十一日 於 進高校	(第一試合)		(第二試合)	
				大將○伊藤	副將○綱島	大將○日吉高校	副將○長谷川
橋本	綱島	牧野	日吉高校	石川	作道	牧野	長谷川
長谷川	牧野	日吉高校	日吉高校	根本	根本	日吉高校	日吉高校
0	—	5	—	4	—	0	—
引分		優勢		引分		引分	引分
先鋒		先鋒○山		崩上四方		崩上四方	優勢
桜井		○崎		副將○松		○竹	○長谷川
福山電波高校		○中		○本		○仁科	○新原
		○出		○本		○井	

(第二試合)		大将 伊藤		崩上四方大将○藤中	
		日吉高校	0	進高校	3
先鋒	綱島	引分	先鋒	長谷川	
副將	橋本	合技	大将	牧野	
大将	長谷川	引分	伊作道	橋本	
副將	伊藤	後腰	副將○小	牧野	
大將	○下嶋	縦四方	大將○小	高橋	○東山
副將○綱島	○長谷川	引分	林倉	西浜	
大將○吉福	○堺富松	内股	大將○小	橋本	
合技優勢	○根根本	引分	神戸高校	高橋	中
大將○吉福	○堀富永	縦四方	先鋒○小野	片谷	
合技優勢	○根根本	合技	神戸高校	下山	
大將○吉福	○堀富永	引分	先鋒○小野	谷野	
合技優勢	○根根本	内股	神戸高校	下野	
大將○吉福	○堀富永	縦四方	先鋒○小野	谷野	
(第一試合)	日吉高校	3	—	3	
三月二十二日	於 神戸高校				
(第一試合)		日吉高校		神戸高校	
		先鋒○綱島	引分	先鋒○福井	4
副將	橋本	合技	大將○吉	橋本	0
大將	長谷川	優勢	副將○吉	高橋	
副將○作道	○下嶋	小外掛	大將○谷	井上	
大將○伊藤	○長谷川	体落	副將○吉	井上	
副將○作道	○根根本	崩上四方	大將○谷	橋本	
大將○伊藤	○長谷川	返技	副將○吉	橋本	
副將○作道	○根根本	巴投	大將○浜柳	家森	
大將○伊藤	○長谷川	合技	副將○浜柳	藤見	
副將○作道	○根根本	合技	大將○浜柳	上森	
大將○伊藤	○長谷川	返技	副將○浜柳	瀬藤	
(第一試合)	日吉高校	5	—	3	
三月二十二日	於 神戸高校				

(第二試合)		大将 伊藤		崩上四方大将○福井	
		日吉高校	2	長田高校	1
先鋒	綱島	引分	大将	橋本	
副將	橋本	合技	副將	柳瀬	
大將	長谷川	返技	大將○浜柳	上森	
副將○作道	○下嶋	巴投	副將○浜柳	瀬藤	
大將○伊藤	○長谷川	合技	大將○浜柳	見	
副將○作道	○根根本	返技	副將○浜柳	森	
大將○伊藤	○長谷川	巴投	副將○浜柳	藤見	
副將○作道	○根根本	合技	大將○浜柳	上森	
大將○伊藤	○長谷川	返技	副將○浜柳	瀬藤	
(第一試合)	日吉高校	5	—	3	
三月二十二日	於 神戸高校				

(○牧野作道合技
副將長谷川引分
大將橋本引分
大將○浜崎弘卷込
大將○浜崎引分
大將橋本引分
井上斎藤
上四方柳瀬
上四方林
細川米山
上四方幾島
上四方松井
上四方松本
大外刈大將松本
大將伊藤引分
大將橋本引分
日吉高校 4 — 1 報徳学園高校

三月二十三日 於 報徳学園高校

(第一試合)

日吉高校 1 — 3 報徳学園高校

先鋒綱島引分先鋒山中

伊藤牧野横四方固
橋本合技○西田

副將作道袖紋植村

大將根本引分皿田

橋本引分副將

大將根本引分大佐田

(第二試合)

日吉高校 2 — 0 報徳学園高校

先鋒○綱島綱四方引分先鋒

伊藤牧野裸絞植村

橋本塩見井藤

大將原崎引分引分

橋本伊藤引分引分

副將根本伊藤引分引分

(第三試合) 日吉高校 4 — 1 報徳学園高校

功勞賞 河上龍雄、芳賀孝穂、内海勝彦、近藤正士、行
功勞賞 本公一
選手章 渡辺弘二、平川道隆、北俊一、松野慶一、河
村東、羽鳥正稔、守田靖、高原徹、野中
嘉明、森秀雄

(第八回東京学生柔道体重別選手権大会)

四月十九日 於 講道館

(軽量級) 塚本広道 四回戦敗退

(中量級) ○稻波唯弘

小川(東大)

第一戦

本塾对明治学院大学对抗試合

四月二十二日 於 綱町道場

○山 塚 本	○加 藤 本	○宮 本 圭 一	○稻 田 正 新	○瀬 戸 口 岡 田 昌 宏	○田 村 信 雄	○稻 波 信 雄
田 本	藤 本	圭 一	正 新	口 岡 田 昌 宏	村 信 雄	
公 広 塾	藤 本					
平 道						
5 合 技						
引 分						
3 先 锋						
波 崎	○增 田 (中 大)	○大 竹 (日 大)	○山 方 (東洋大)	○山 崎 (成 晴)	○山 崎 (成 晴)	陳 内 (東洋大)
石 井	山 田 (大東文化大)	本 鄉 (東海大)	林 (青学大)	(大東文化大)	(大東文化大)	南 (國士館)
明 治 学 院 大 学						北 井 (日体大)

第二戦

先鋒 ○ 城 本 塾

四月二十四日 於 明治学院大学

○古 鈴 塚 進 熊 岡 山 大 本	○稻 岡 田 村 口 松 古 羽 熊 鳥 谷
屋 木 本 藤 谷 田 本 城	○瀬 戸 口 岡 田 村 葉 古 羽 熊 鳥 谷
敏 重 広 大 喜 雅 朝 塾	○田 村 昌 信 直 敏 喜
郎 安 道 二 隆 博 恵 幸	○松 古 羽 熊 鳥 谷
5 引 分	○羽 熊 鳥 谷
払 巻 达 大 内 刈 大 外 刈	○田 村 唯 圭 直 敏 喜
引 分	○瀬 戸 口 岡 田 昌 信 直 敏 喜
先 锋	○田 村 唯 圭 直 敏 喜
○中 村 三 木 大 宮 若 片 岡	○松 古 羽 熊 鳥 谷
阿 久 津 宅 内 井 川 木	○瀬 戸 口 岡 田 昌 信 直 敏 喜
明 治 学 院 大 学	○田 村 唯 圭 直 敏 喜

関東高等学校柔道大会神奈川県予選										
日吉高校A チーム					五月三日 於 南高校					
(二回戦)					平沼高校(A)					
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	古橋	上原	飯田	白井	口川	
先鋒	○綱	○作	牧	島	優勢	引内股	引分	引先鋒	引大將	
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
大將	○石川	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
先鋒	○綱	○作	牧	島	優勢	引内股	引分	引先鋒	引大將	
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
大將	○石川	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
日吉高校 A	4	—	0	2	—	0	平沼高校(A)	4	—	0
(三回戦)	日吉高校 A					五月三日 於 南高校				
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	古橋	上原	飯田	白井	口川	
先鋒	○綱	○作	牧	島	優勢	引内股	引分	引先鋒	引大將	
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
大將	○石川	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
先鋒	○綱	○作	牧	島	優勢	引内股	引分	引先鋒	引大將	
副将	○渡辺	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
大將	○石川	○作道	牧野	島	大將	引分	引副將	引先鋒	引大將	
日吉高校 A	4	—	0	2	—	0	平沼高校(A)	4	—	0

		大将○石川		大将○石川		大将○石川	
先鋒 綱島		牧野		道		渡辺	
副將 ○作		○作		○作		○作	
大將○石川		大將○石川		大將○石川		大將○石川	
(準決勝)		(出場決定戦)		(日吉高校A)		(日大高校A)	
先鋒○綱島		副將 渡辺		副將 渡辺		副將 渡辺	
大將○石川		大將○石川		大將○石川		大將○石川	
○牧		○牧		○牧		○牧	
石川 辺 道 野 島		石川 辺 道 野 島		石川 辺 道 野 島		石川 辺 道 野 島	
日吉高校A		日吉高校A		日大高校A		日大高校A	
2		1		2		2	
引 分		引 分		引 分		引 分	
分 副將		分 副將		分 副將		分 副將	
大將		大將○先鋒		大將○副將		大將○副將	
小林 木崎 村間		小林 木崎 村間		小林 木崎 村間		小林 木崎 村間	
2		1		2		2	
——		——		——		——	
0		0		0		0	
逗子開成A		星野浅井		保田		渡辺	
高間		秋山		○浅井		○渡辺	
木村		木村		木村		木村	
木崎		木崎		木崎		木崎	
杉		杉		杉		杉	
鈴木		鈴木		鈴木		鈴木	
林		林		林		林	
内股		内股		内股		内股	
大将		大将		大将		大将	
福井		福井		福井		福井	
鎌倉学園高校		鎌倉学園高校		鎌倉学園高校		鎌倉学園高校	

A チーム 関東大会出場決定。

日吉高校 B チーム

本学生柔道大会への出場は成らなかつた。

(二回戦)

(一回戦)

日吉高校 B

3 — 0

平沼高校 B

先鋒 ○ 根 本 優勢 大内返 引分 大将

○ 下 嶋 本 ○ 橋 本

副将 山 田 大将 小 沢

(二回戦)

日吉高校 B

1 — 2

日大高校 B

先鋒 ○ 大 浦 優勢 先鋒 ○ 大 浦

○ 下 嶋 本 ○ 橋 本

副将 山 田 大将 小 沢

合 技 優勢 引 分 優勢

引 分 優勢 引 分 優勢

大将 ○ 居 北 蜂 原 石 川

副将 大将 ○ 居 北 蜂 原 石 川

五月十一日 於 日本武道館

第十八回東京学生柔道優勝大会

本塾は三回戦で強豪日大に6—0の大差で破れた後、敗者復活戦でも駒沢大学に3—1で敗れ、本年度は全日

(敗者復活戦)		本塾		武藏大学	
先鋒 稲波 唯弘	本塾	副将 大将 田 村	瀬戸 口 松 波 信 昌	先鋒 ○ 上 口 直 唯 弘	7 — 0
副将 大将 田 村	瀬戸 口 松 波 信 昌	先鋒 ○ 上 口 直 唯 弘	7 — 0	渡辺 会 鈴 木 田	
○ 岡 田	○ 宮 本 広 一	○ 岡 田	○ 岡 田	○ 岡 田	
○ 松 田	○ 松 田	○ 松 田	○ 松 田	○ 松 田	
○ 塚 本	○ 塚 本	○ 塚 本	○ 塚 本	○ 塚 本	
○ 本	○ 本	○ 本	○ 本	○ 本	
○ 垣 本	○ 垣 本	○ 垣 本	○ 垣 本	○ 垣 本	
○ 松 本	○ 松 本	○ 松 本	○ 松 本	○ 松 本	
○ 葉 本	○ 葉 本	○ 葉 本	○ 葉 本	○ 葉 本	
○ 波 本	○ 波 本	○ 波 本	○ 波 本	○ 波 本	
○ 本	○ 本	○ 本	○ 本	○ 本	
○ 廣 一	○ 廣 一	○ 廣 一	○ 廣 一	○ 廣 一	
○ 道	○ 道	○ 道	○ 道	○ 道	
1 — 3	日本大学	0 — 6	日本大学	0 — 6	
先鋒 ○ 武 矢	駒沢大学	副将 大将 ○ 川 島	副将 佐久間	副将 大将 ○ 川 島	
		○ 高 木	○ 高 木	○ 高 木	
		○ 棟 田	○ 棟 田	○ 棟 田	
		○ 田 中	○ 田 中	○ 田 中	
		○ 田 中(直)	○ 田 中(直)	○ 田 中(直)	

駒沢大学

東京都中学校柔道大会

五月十八日

副将	田	松	加藤	宮
大将○岡	本	本	本	直信
田	広	陽	彦	雄
昂				

副将	○古島
大将	松季
大津	高林
西	本山
津	島

(一回戦)		中等部		3		優勢		優勢		優勢		先鋒		大泉学園	
先鋒		木村		○小杉		○長谷川		○木村		○木村		○木村		○木村	
副将		鈴木		味沢		○木村		○木村		○木村		○木村		○木村	
大將		味沢		○木村		○木村		○木村		○木村		○木村		○木村	
1		—		4		開成中学		引分		引分		引分		引分	

合技	1	—	4	開成中学
袈裟固	優勢	先鋒	○山下	
副将○福	○山	○山	山下	
田	田	田	下	

(中量級)	○伊藤	○伊藤	○下	○下	○下	○下	○下	○塩	○小山	○小山	○小山	○根	○根	○根	○根
	○伊藤	○伊藤	○嶋嶋	○嶋嶋	○嶋嶋	○嶋嶋	○嶋嶋	○山沢	○沢	○沢	○沢	○本	○本	○本	○本

不戦	池田(港)
内股	岸本(鎌倉学園)
内股	岡野(鶴見工)
内股	山口(城北工)
内股	市川(吉農)
内股	矢澤(戸塚)
内股	岸本(鎌倉学園)
内股	岡野(鶴見工)
内股	山口(城北工)
内股	市川(吉農)
内股	矢澤(戸塚)

足	○中															
足	○武坂															
足	○清田															
足	○村(茅ヶ崎)															
足	○川坂															
足	○柳町															
足	○本(湘南定)															
足	○高梨(逗子)															

神奈川県高校対抗体重別大会

五月二十四日、二十五日
於 日大藤沢高校体育館

大将	味沢
合技	大将○税所

神奈川県下相模原大会(日吉高校)	六月一日於相模台工高	(重量級)									
		石井	川	川	川	川	道	道	道	中	作
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		石	石	石	石	石	作	作	作	中	中
		井	川	川	川	川	道	道	道	川	川
		伊藤	島	島	島	島	島	島	島	島	島
		綱	綱	綱	綱	綱	綱	綱	綱	綱	綱
		背投	背投	背投	背投	背投	縦四方	縦四方	縦四方	大内刈	大内刈
		優勢	優勢	優勢	優勢	優勢	合技	合技	合技	背投	背投
		製婆固	製婆固	製婆固	製婆固	製婆固	吉田須高	吉田須高	吉田須高	清本(湘南)	小野(相洋)
		縫	縫	縫	縫	縫	岡田(須高)	岡田(須高)	岡田(須高)	秋澤(金沢)	田城北工
		縫	縫	縫	縫	縫	小林(逗子開成)	小林(逗子開成)	小林(逗子開成)	松田(日大)	松田(日大)
		縫	縫	縫	縫	縫	佐々木(磯工)	佐々木(磯工)	佐々木(磯工)	藤野(浅野)	藤野(浅野)
		縫	縫	縫	縫	縫	落合(日大藤沢)	落合(日大藤沢)	落合(日大藤沢)	近藤(大藤沢)	渡辺(大藤沢)

本塾对東京大学对抗試合	六月七日於綱町道場	(一回戦) 日吉高校									
		先鋒	○岡山	本塾	○渡辺	副將	○橋本	大將	○牧野	大將	先鋒
		○	○		○	○	○	○	○	○	○
		小林	田中	田中	近藤	石川	川本	大野	大野	大野	渡辺
		岡田	成田	成田	藤川	本川	本川	野川	野川	野川	近藤
		雅	酒井	酒井	井上	佐藤	佐藤	見田	見田	見田	井上
		寛	(磯工)	(湘南)	(湘南)	(磯工)	(磯工)	(磯工)	(磯工)	(磯工)	(磯工)
		7	4	1	2	5	0	5	0	5	0
		六月七日	於	綱町道場	工藤道場	三菱電機		上四方	先鋒	平野	
		引分	引分	引分	引分	引分	引分	内股	内股	桑野	山中
		体落	大内刈	大内刈	大内刈	大内刈	大内刈	副將	副將	大久保	川崎
		川西	吉田	近高	高橋	田見	田見	川崎	川崎	桑野	山中

第十七回関東高等学校柔道大会

六月八日 於 武道館

(予選リーグ)

0

— 3

利根高校

先鋒 日吉高校

作道

優勢

先鋒 星野

大竹

副将 渡辺

綱島

優勢

副将 田角

木

副将 牧野

跳巻

達

副将 鈴木

大竹

大将 渡辺

日吉高校

優勢

大将 田角

木

先鋒 牧野

背負投

先鋒

横四方 岩瀬

太田

副将 石川

引分

引分

副将 望月

太田

副将 牧野

横四方

横四方

副将 柴田

柴田

副将 石川

内股

内股

副将 大鍋

大鍋

副将 島田

渡辺

渡辺

副将 田辺

田辺

副将 牧野

横四方

横四方

副将 月田

月田

副将 牧野

横四方

横四方

副将 田辺

田辺

本塾対県當警察対抗試合

六月十六日 於 济寧館

○ 田 稲 加 熊 塚 進 檜 松 小 小 岡 岡 櫻 小 小 羽 西 鈴 小
 小 村 田 藤 谷 本 藤 見 葉 林 林 田 田 田 田 田 田 田 木 島 木 林
 信 喜 広 大 崎 直 俊 正 良 重 利 典 順 信 利

引 分 横 四 方 引 分 横 四 方 引 分 横 四 方 引 分 横 四 方 引 分 横 四 方
 分

大將 副將

○ 宗 手 瀬 戸 嵐 崎 前 飯 飯 山 本 渡 小 小 佐 堀 平 条 井 祇 祇 祇
 岡 塚 口 谷 田 田 田 根 田 辺 川 林 藤 川 野 井 祇 祇 祇

先鋒 ○ 吉 田 朝 幸 本 塾

4 | 5

小内刈 先鋒 ○ 桜 井 佐 藤 県當警察

大將 副將 先鋒 本
 宮岡[○]塚進岡山 本
 本田葉本藤田田 勢
 主直広大雅公 勢
 一昂彦道二博平

引 分 優勢 分 縱四方 優勢 1
 分 勢 分 送繩絞 先鋒 3
 大將 副將 伊西角宮[○]清斎[○]高井[○]澤垣[○]水本[○]藤松[○]
 先鋒○高松[○]

六月二十日 於 海道警察 清寧館

大將 副將 ○加木塚下木本[○]木[○]木[○]木[○]木[○]木[○]木[○]
 稲波田圭昌敏順廣信雄安[○]
 唯弘昂一宏陽郎一道順雄安

優勢 分 背負投 合技 引分 優勢 分 背負投 合技 引分 優勢 分 背負投 合技
 優勢 分 背負投 合技 引分 優勢 分 背負投 合技 引分 優勢 分 背負投 合技
 大將 副將 ○東柴引千高[○]高田葉[○]山田[○]山田[○]山田[○]山田[○]
 伊西角宮[○]清斎[○]高井[○]澤垣[○]水本[○]藤松[○]

本塾対北海道警察対抗試合

神奈川県高等学校柔道大会（全国大会予選）

六月二十二日 於 横須賀高校

一回戦

日吉高校

3 | 0

藤沢商業

先鋒 綱島

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

副将 ○長谷川

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

二回戦

大將 ○石川

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

先鋒 綱島

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

三回戦

大將 ○石川

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

副将 ○作道

大將 ○石川

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

副将 ○作道

大將 ○石川

渡辺

日吉高校

3 | 0

引分 先鋒

横溝

中村

高橋

藤沢商業

	大將○石川	優勢	大將	金子
準決勝	日吉高校	2	—	1
	鎌倉学園高校	内股透	先鋒○落合	
先鋒 綱島	優勢	高橋	優勢	
○作道 渡辺	佐藤	引分	副将	
副将 中川	森住	引分	大将	
大將 石川	佐々木	引分	佐々木	
決勝	日吉高校	1	—	1
	日大高校	日大高校		
先鋒 綱島	引分	引分		
○作道 渡辺	秋山	星野		
副将○中川	引分	保田		
大將 石川	優勢	副将 浅井		
崩上四方大將○金子				

内容負。この結果、惜しくも全国大会出場はならなかつた。

朝飛速夫師範長逝（柔友会報）

昭和二十九年より本塾柔道部をご指導下さった朝飛速夫師範が、六月二十一日午前十時神奈川県立成人病センター

において、直腸ガン再発のため逝去された。本塾柔道部にとつても、また日本柔道界にとつても誠に残念なことである。

朝飛師範は真に柔道を愛し、全日本柔道選手権大会に長年に亘り出場されるなど数々の大試合に活躍された。その実力、経験、柔道に対する人一倍の熱意と類稀なる誠実な人柄で抜群の指導力を發揮され、本塾柔道部に於ても多数の人材を育成された。

また、神奈川県警の師範をはじめ、東京オリンピックでは日本選手団のコーチも勤められるなど幅広い功績を残された。

朝飛速夫師範のご葬儀は六月二十六日横浜市久保山靈場に於て挙行された。

本塾柔道部員、多数の先輩の他、神奈川県警察をはじめ日本柔道界から多数が参列し師範の生前の誠実なお人柄を偲んで、永の別れを告げた。

ご遺族は和子未亡人、長女一美さん、長男大さん。

朝飛先生を想う

暑い夏がやって來た。毎年の夏合宿や遠征に、一緒に

師範 清水 正一

連れ立つて、部員諸君と旅した朝飛さんが、今年からもう永遠に吾々と一緒に旅する事がなくなつた。

塾柔道部における十五年を越す長い伸び付きを持つて、心から信頼して来た朝飛さんの死は、未だに私の胸に実感として湧いては来ない。

朝飛さんは、真剣に柔道に打ち込み、柔道を愛し続けて来た。常に部員一人一人に対しても、吾々に対しても、又先輩の誰彼に対しても、真実な心の姿勢を崩した事がなかつた。実に純粹な、素直な、時によつては謙虚過ぎる程の控え目な人柄でもあつた。

一昨年の冬、正月も真近かな頃、講道館長から外務省派遣の文化使節として、東南アジアに派遣する柔道指導者の人選の相談を受けた。私は直ぐに朝飛さんを推薦し、その人物と力柄に就いて、必ず館長の御期待に添い得る事を力を説いてお願いした。翌年（去年）二月から三月にかけて、朝飛さんの柔道使節は実現した。

前年の塾柔道部第二次台湾遠征に続いて、二回目の海外指導の経験を持った朝飛さんは、帰国してから私に、「海外旅行を見て、改めて柔道を見直し、考え方直し」た。と語つて呉れたが、朝飛さんはこの旅行を機に広い視野に立つて柔道を自覚する機会を得た事に、私は限

りない喜びを感じた。

この旅行中に、朝飛さんを東京学生柔道連盟の理事に推薦した。満場一致で確定になり、今後学生柔道界の指導的立場も確立して、専心塾柔道部の指導に当り、伝統の塾風を守り育てる塾生の「先達」として、その責を尽して呉れる事を確信した。私は思う処であつて、この年の三月一杯で永い柔道専任師範を辞任した。全く安心して最良の後継を持つ事を心秘かに喜びとしていた。

朝飛さんが帰国して間もなく、日吉の春合宿が始まつた。

私も終りを全うしようと精勤した。張り切つた朝飛さんは、毎朝のトレーニングから毎夕の稽古迄、率先して頑張つて居られた。と、突然その姿が見えない日が続いた。一日、二日、三日。不思議に思い乍ら過した。四月になつて「下痢が続いて困るが、欠席して申証ない。早く治して出ます。」との電話があつた。

私は恐らく東南アジアの果物類から特有のアミーバー赤痢にかかつて来たのではないかと、戦地での経験を語つて、一日も早く山岡さんの警友病院で診て貰う事をすすめて電話を切つた。

之が「好漢朝飛速夫」を一年後に死に至らしめた恐るべき「直腸ガン」の発端とは知る由もなかった。

朝飛さんが本務とする警察界の諸行事と、柔道部の行事との調整に心を碎いて、気を使って居られた朝飛さんに私は、「氣兼なぞせず、協力出来る期間に大いにやつて呉れれば良いのだから」と、云い続けて永年過ごして

来た間柄から、誠にいじらしい程の純情と、責任感の深さを、しみじみ思ひ知らされる事が多く、今、こおして

ペンを走らせ乍らでも、朝飛さんのあの動作、この動き、アノ顔、アノ歩き方迄が、鮮明に脳裏に浮んでは消えてゆく。

朝飛さんは、私の心中に今も生きている。そして私の云う事を素直に聞いていて呉れる。

「前途春秋に富む」と謂う言葉がある。朝飛さんが、今迄の修行を土台に、眞の柔道を以て、世に立つ最も貴重な今、四十五才を一期に世を去つた事の悲しさは、残された御遺族もさる事乍ら、又吾々塾柔道部一同にも増して、最も無念を感じてゐるのは、恐らく朝飛さん本人であると私は信じてゐる。この今の世に、得難い尊い人柄と、力倅を持つ指導者を失つたことは、塾柔道部にとっても日本柔道にとっても大きな不倖せである。

併し、吾々直接柔道を通して通い合つた者の心の中に
は、朝飛さんは死んではいない。吾々は朝飛さんを心の中にしとほしみ乍ら、塾柔道部の隆盛を期して精進する日々が、唯一の朝飛さんの遺志に答えるものであろうと信じてゐる。合掌。

(昭和四十四年八月十二日付柔友会報第二十号より)

朝 飛 先 生

昭和三十五年卒 檜山 治

私が、先生の訃報を同期の佐々木真一郎君から受けたのは、六月二十一日、土曜日の午後三時頃でした。

其の晩、朝飛先生の道場で御通夜の有ることの連絡を受けて、白楽の駅から道場に歩いて行く内に、確か、私が高校二年の頃、此の道場に一度来たことがある事を思い出しました。先生に初めて御会いした時の事は私の記憶に浮んで来ません。私が極く小さい時から先生を知っていた様もあり、又、何にか遠い過去の様な気もする、換言すれば其れ程自然に先生の存在が自分の中についたと云うことだと思います。

先生との稽古は、技を掛けると、ふところがやけに深くて、自分の体がスッボリと先生の中にはまり込む様

で、そんな時は身長の小柄な先生が、つかまい所のない様に大きく感じられました。先生の人柄も、其の稽古の感触の様に大きな包容力で、底知れぬ大きさと、温い感じの方で御座居ました。

こうして、今、先生との稽古を思い出していると今でも先生のぬくもりが自分の肌に残っている様に思えてなりません。

当時のあの元気だった先生が、昨年十月、入院されたとの報せを受けた時、先生を存じ上げて居る全ての者と同様私には信じ難いことであり、先生は、必ず全快されることを信じて居りました。

あれが、九州ナマリと云うのでしょうか。私共が、技の質問をすると「ハァイ、ハァイ」と先生独特の節回しで、合づちを打ち何でも気軽に相談の出来る雰囲気が非常に心良い事でした。

しかし相談した結果は、先生御自身がそうであつた様に結局は自分で努力して技を自分で身につけると云う結論を上手に言い聞かされてしまふことでした。

六月二十六日、久保山葬儀場に於ける盛大な告別式には、当然のことながら神奈川警察の懐かしい人々の顔も見え、先生に連れられて神奈川県警チームと、県警の道

場或は三田道場で試合をした事など思い出されると同時に、先生の柔道精神は此の人達は勿論、今後共、新しい歴史を積重ねて行く慶應義塾柔道部の中に永遠に続くものだと信じます。

私自身の人生にとっても先生の教えを受けた幸せをかみしめると同時に私の社会生活の中にこの受継いだ先生の精神的遺産を生かして行くことが先生への恩返しになることだとの思いを新らたにしました。

朝飛速夫師範追悼試合

(昭和四十四年八月十二日付柔友会報第二十号より)

朝飛速夫師範追悼試合

七月十九日 於 綱町道場

長年にわたり本塾柔道部をご指導下さり、先月逝去された朝飛速夫師範の追悼柔道試合を綱町道場で行なつた。

師の薰陶を受けた現部員、先輩が集まり、「朝飛先生の遺志を繼いで今後とも精進することを誓い合い、亡き師のご冥福を祈つた。

(一回戦)

		(決勝)		渡辺(明)	
		大將宮	大作道	城本	辺(明)
副將					
大將					
四組					
先鋒○山下					
副將○田内					
大將○塚田					
四組の優勝。					
中学生三人掛	猪原	3	—	引分	引分
高校生五人掛	鈴木	2	八組	引分	引分
選抜試合	正毅	引	優勢	引	引
伊 榊 友 芳 石	○植 清 滝 ○児	優	引	引	引
藤 原 田 賀 渡	本 村 水 沢 玉	勢	腰分	分	分
照 清 義 孝 英	光 健 次 正 緑 一	引	投	副將	副將
彦 隆 輔 穂 二	藏 敬 郎 男	分	先鋒	大將	大將
○橋	○児	大將	○成 湯 ○成 長	野 口	成 鈴
植 清 滝	玉	副將	毛 本 戸 木 木	木 島	木 島
本 村 水 沢	光 健 次 正 緑	綱島	芝 中学	毛	毛
健次郎 敬郎 男	藏 敬 郎 男	芝 中学	0 — 4	芝 中学	芝 中学

堀 信孝
金杉 浩
東京都中学校城南ブロック大会
七月十六日

福田 靖与
水谷 英男

東北・北海道遠征

今年度夏季遠征は八月十八日から二十三日まで東北・北海道地区へ行き、各地で合計六試合を行つた。

(遠征参加者)

稻波唯弘、宮本圭一、稻田 新、岡田聰、田村信雄、松葉直彦、瀬戸口昌宏、加藤 陽、古屋敏郎、鈴木重安、小林 寛、木下順一、塚本広道、検見崎栄、鈴木重利、羽鳥 順、進藤大一、熊谷喜隆、小林俊介、桜田 裕、藤原芳隆、岩佐 裕、岡田雅博、西島良信、山田公平、大城朝幸、山本 恵、全 在憲

対全仙台対抗試合

八月十八日

於東北学院大学体育館

先鋒
木 鈴 羽 小 林 俊 重
本 塾 在 烏 鳥 介 利

○岡 進 木 加 藤 藤 稲 岡 濱 口 檢 岸 全 羽 小 木 重
田 藤 藤 下 原 原 田 島 山 田 田 岬 嵐 羽 鳥 林 俊
大 順 芳 雅 昌 良 公 森 嵐 在 烏 鳥 介 利

内 縦 四 方	優 引 優 引	関 鍋 技	引 分 崩 上 方	引 分 分	内 内 内 股	内 内 股	足 落 払	引 分	10
股	勢 分	勢 分	分	分	股 分	股 分			14

熊 佐 安 ○ 安 伊 洞 洞 勝 阿 阿 曾 橫 全 仙 台	及 川 三 浦 (東北高) 川 (東北高) 根 (東北高) 山 (東北高)
谷 谷 (学院大) 藤 (学院大) (警察) (学院大) (警察) 秋田谷 (学院大)	

対岩手県警対抗試合

八月十九日

於警察学校道場

羽 櫻 田 田 本 塾	先鋒 ○ 山 公 補	大 将 松 宮 宮 塚 稲 桜 小 田 古 大 岡 岡 岡 岡
鳥 田 田	大 将 直 葉 本 本 本 本 本 本 波 田 林 村 屋 城 田 田 田 田	
公 塾	副 將 圭 広 唯 信 敏 朝	
順 裕 平	彦 一 道 弘 裕 寛 雄 郎 幸	

引 分 4	背 負 投 4	優 劣 鈎 达 腰 優 劣 合 技 引 分 優 劣 鈎 达 腰 優 劣 大 外 卷 引 分 優 劣
		勢 势 鍋 分 技 分 势 分 鍋 分 技 分 势 分

及 入 高 川 口 橋 岩 手 県 警	菊 地 (警 察) 武 田 (警 察) 阿 部 (学院大) 渡 辺 (学院大) 橋 (学院大)
	○ 大 島 虎 川 小 竹 小 竹 高 橋 ○ 高 橋 (柔 專)
	○ 大 黒 谷 (柔 專) (警 察) 小 竹 竹 (柔 專)

先鋒
○瀬戸口 小林 岩谷 佐喜 昌介 岩佐 喜裕 隆裕 植見 崎栄 藤原 朝幸 岡田 雅裕 幸博 大城 藤原 朝芳 田原 朝平 本塾

送襟絞	合	引	合	優勢	袈裟固	合	合	合	合	10
工藤	○佐々木(勇)	○小倉	○川崎	田島	本郷	○松谷	市ノ渡	小泉	全青森	5
									於警察学校道場	二十一日

引	引	合	優	送足払
分	分	技	勢	
上四方	大外返	傷	勢	
大將	副將	優	勢	
沼	○千	引	引	
崎(俊)	葉(翠)	分	分	
	○中	分	分	
	○下	藤	佐々木	小川口
	大	村	菊池	
	千	葉(誠)		
	崎(喜)			
	村			
	葉(翠)			

○ 檢見 岐 在 全 羽 鈴 木 木 岩 大 山 岡 本
藤 原 芳 隆 荣 榮 憲 順 安 一 裕 幸 平 博 熟
原 岐 在 重 順 朝 公 雅 勝
芳 隆 荣 憲 順 安 一 裕 幸 平 博 優
優 勢 合 技 合 技 合 技 内 股 引 分 崩 上 四 方 後 腰 捏 投 優 勢
勢 技 技 技 技 技 技 分

大將 副將 ○岡 宮 松 田 古 塚 加 木 櫻
田 本 葉 村 屋 本 藤 下 田
圭 直 信 敏 広 順
昂 一 彦 雄 郎 道 陽 一 裕

引分 払足送 内股透 勢優合 勢優勢 勢落股 体内 大將副將 ○ 祚寺山 福井 藤井 藤木 佐々木 中野中田白石十田桐

對北海道警察對抗試合

○ 濱戸口 檢見崎 進 大藤城 原鳥田 木田 昌 大朝芳 公重 雅 宏栄二 幸隆順 平安博	○ 鈴岡山 本塾 先鋒	○ 古葉藤屋加藤直大 進藤葉唯信圭 広昌敏一 弘道彦郎陽彦二
小外掛 上四方 分引 技合 技合 小内刈 技合 技合 先鋒	5 6	引合 分技 技合 技合 大將 佐々木
清斎中 村庄安 伊池佐 水藤村上 司藤藤田橋	北海道警察 北海学園大学	田西田渡中長安鈴 木口中垣村辺西屋井木

八月二十三日 於 北海学園大学

對北海学園大学對抗試合

○ 松瀬古塚鈴検見崎進山岡山 本葉戸屋本木木崎藤本本田田 圭直昌敏広重大雅公 一彦宏郎道安栄二恵博平	○ 先鋒 本塾 先鋒	○ 古葉藤屋加藤直大 進藤葉唯信圭 広昌敏一 弘道彦郎陽彦二
鈎込腰 巴投勢 優勢 崩崩 上四方	8 2	引分 優勢 引分 優勢 内股透 大外刈 引分 優勢 引分 大將 副將 伊沢
山宮立葛山吉葛西古葛金沢 崎本松西(義)本井西(民)野川西(正)	北海学園大学	○ 西角井本垣 ○ 佐藤誠 ○ 田畠藤力 ○ 田畠藤誠

八月二十三日 於 北海学園大学

○田 村 信 雄 大外刈
 ○岡 田 鳴 勇 浅 野
 副将 ○ 加 藤 陽 合 技 下 道
 大将 ○ 稲 波 唯 弘 副 将 北 岡
 内 股 大 将 枝 広 久 保 克 利

埼玉県低学年大会

八月二十二日 於 県立武道館

(予選リーグ)

志木高校 2 —— 3 熊谷商業

志木高校 3 —— 1 羽生実業

一勝一敗のため決勝トーナメント出場できず。

上田 隆宣

埼玉県民大会高校大会

八月二十八日 於 県立武道館

(予選リーグ)

志木高校 0 —— 5 飯能商業

志木高校 0 —— 5 川越農業

決勝トーナメント出場できず。

今回の試合は志木高校は一年生（白帯）で経験を積む
ということで出場した。他校は全員二年生で黒帯であつ

たので完敗した。しかし、全員健闘し、今後に期待がも
てる試合内容であった。

(出場者) 田村英一、深沢澄、和田尚久、森下勉、大

久保克利

第十二回東京選抜学生柔道優勝大会

九月十三日 於 講道館

(一回戦)

本 勢

先鋒 ○ 古屋 敏郎 背負投 先鋒

○ 加藤 陽 合 技

○ 松 葉 直 彦 横四方

○ 稲 波 唯 弘 内股

○ 岡 田 鳴 勇 根岸

(二回戦)

本 勢

先鋒 ○ 宮 本 圭 一 蔵原

松 塚 山 本 直 彦 岸

葉 本 広 公 勝

1 —— 0

内股

引 分

優 勢

引 分

大 将

先鋒

○ 本 泰 野

東海大学

今 井

副將○田松宮岡加稻古葉本村葉本田藤波屋信直圭雄彦一昂陽弘郎	先鋒○宮岡稻山塚本田波田廣弘平道	副將○田松宮岡稻山塚本田波田廣弘平道	先鋒○岡田本村波信唯雄弘昂一
(決勝)	(準決勝)	(決勝)	(準決勝)
優勢分	2	優勢分	2
大將○鶴荒押藤加佐谷戸木木藤布谷	先鋒○大東文化大学	大將○副將○来田野三原笠原木沼田松田國學院大學	大將○副將○長賀見北野
2	4	0	0
この結果惜しくも一位に終る。			

九月十七日 於 日体大道場		本塾對日本体育大学対抗試合
先鋒	4	18
熊谷喜芳朝隆大原豊中喜芳朝隆	藤原城中田葉喜芳朝隆	大田豊松○牛○山○木○中○下○島○川○原○
藤留秀直守彦正	留百順彦明	木○中○大○前○田○大○前○田○大○前○田○
藤弘康彦明彦郎	康紀善一明治彬	山○木○中○大○前○田○大○前○田○大○前○田○
藤善一明治彬平哲	善一明治彬平哲	木○中○大○前○田○大○前○田○大○前○田○
大外刈返腰技○飯飯飯飯向向○左左○左左○羽羽○村村	移送襷絞○飯飯飯飯向向○左左○左左○羽羽○村村	袖釣込腰先鋒○村上
引分○外刈返腰技○飯飯飯飯向向○左左○左左○羽羽○村村	巴裹糸固○優勢合技○松卷込○優勢合技○大外刈引分○	崩上四方
引分○外刈返腰技○飯飯飯飯向向○左左○左左○羽羽○村村	投○優勢合技○松卷込○優勢合技○大外刈引分○	
上田田田田田井井口口矢矢上上	上上	

一回戦

(一年の部)

神奈川県高等学校学年別柔道大会

九月二十日

於秦野高校

大將 副將
 稲宮 ○ 羽加 加 ○ 稲岡 進 檢見崎 ○ 檢見崎
 波本 鳥藤 藤田 田藤 木田 木橋 木田 林辺
 唯圭 大重 正公 俊和 雅博
 弘一順 陽新昂 二二 実安裕 利憲 平介 男博

引 分 引 分 小外刈 袖釣込腰 優勢 分 優勢 分 優勢 分 優勢 分 技勢 分 優勢 分 優勢 分 優勢 分 優勢 分

川村 ○ 吉中 加加 ○ 尻久今村 北園 ○ 中北小中中中
 上上田村藤藤藤無永村田井山山島川川川

四回戦

(二年の部)

日吉高校

三回戦

(二年の部)

日吉高校

二回戦

(二年の部)

日吉高校

日吉高校

引	脇	跳	崩	合	4	崩	優	内	引	合	4	裂	閑	体	引	優	4
分	絞	腰	上	技	0	袈裟	勢	股	分	技	0	姿	節技	落	分	勢	0
大將	副將		四方	先鋒		大將	副將		大將	副將		大將	副將		大將	副將	
石本	古三	山多	福三	川茂	小福	川茂	小福	三	平浦	平浦	原井	原井	杉秋	上	田上	厚木高校	
沢	島川	平口	島川	畠木	島平	川畠	木島	浦	浦	上	上	上	上	田	田	上	

						日吉高校
副将○伊藤島	○作道嶋	下田野	日吉高校	(三年の部)	日吉高校	
大将○綱島	○作道嶋	下田野		先鋒	田中	橋本
副将○伊藤島	○作道嶋	下田野		副將	渡辺	石川
大将○綱島	○作道嶋	下田野		大將	山田	橋本
						(本塾の内容勝ち)

				1	—	1	大磯工業
合	縦四方	大内刈	優勢	横四方	——	0	合技
技	大内刈	優勢		引	引	引	相沢
大	副将	○伊藤島	○作道嶋	分	分	分	先鋒
将	露油木	小原澤	平塚商業	大將	副將	大將	寺島
	大内刈	○真山崎		先鋒○落合	○伊藤島	○伊藤島	加藤島
	大内刈	間崎		加藤榮	田中	田中	中条
	大内刈	間崎		村岡	中	中	寺田
				田中	田中	田中	加藤島
				1	—	1	日大藤沢高校
合	縦四方	大内刈	優勢	横四方	——	0	合技
技	大内刈	優勢		引	引	引	相沢
大	副将	○伊藤島	○作道嶋	分	分	分	先鋒
将	露油木	小原澤	平塚商業	大將	副將	大將	寺島
	大内刈	○真山崎		先鋒○落合	○伊藤島	○伊藤島	加藤島
	大内刈	間崎		加藤榮	田中	田中	中条
	大内刈	間崎		村岡	中	中	寺田
				田中	田中	田中	加藤島

						三回戦
		先鋒	副将	大将○伊藤島	○作道嶋	日吉高校
決		勝	勝	大将○伊藤島	下田野	
大	副将	○作道嶋	下田野	先鋒○伊藤島	日吉高校	
将	代綱	表島	藤道	副將	下田野	
	伊藤島	藤道	嶋	大將	日吉高校	
	伊藤島	藤道	嶋	先鋒○伊藤島	下田野	
	伊藤島	藤道	嶋	副將	日吉高校	
		先鋒	副将	大将○伊藤島	○作道嶋	日吉高校

					2	—	1	逗子開成高校
優	優勢	引	引	引	1	—	0	大内刈先鋒○大山
勢	勢	分	分	分				
大	副将	○星居	金浅	飯塚	1	—	0	大内刈先鋒○大山
将	星居	金井	飯塚	高橋				
				宮川				
				井				
				日大高校				

日吉高校は代表戦で敗れ惜しくも二位。
○金子

本塾対東京教育大学対抗試合

作道

返技

○金子

先鋒

本塾

9 | 10

先鋒
教育大学道場

九月二十三日於

東京教育大学

○	山	塚	進	小	熊	検	見	崎	○	高	高	大	藤	鈴	岡
田	田	本	藤	林	谷	崎	崎	○	西	島	橋	橋	原	木	田
公	広	大	正	喜				○	城	原	木	木	利	博	
平	道	二	典	隆				○	憲	幸	隆	利			
引	掬	引	引	崩	崩	上	四方	○	内	内	内	内	引		
分	投	分	分	上	四	方		○	股	股	股	股	私		
塚	壁	瀬	後	○	後	多	下	○	相	相	相	相	先鋒		
田	谷	川	藤	藤	藤	藤	和	○	松	松	松	松	松		
								○	東	京	教	育			
								○	大	學	道	場			
								○	教	育	大	學			

先鋒	大將	副將	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡	稻	宮	羽	田	田	松	松	加	桜	木	瀬戸	渡	稻	鈴	古
本	波	波	鳥	村	村	葉	葉	藤	田	下	口	辺	木	木	屋
雅	唯	圭	信	直	順	昌	和	宏	男	新	安	重	敏	安	郎
博	弘	一	雄	彦	陽	裕	一	宏	新	安	安	安	安	安	安
5	引	引	優	大	引	釣	体	引	合	引	支	上	大	合	技
	分	勢	内	刈	分	込	落	分	技	分	釣	方	内	内	合
16	先鋒	副將													
民	柳	佐	篠	高	斎	大	宍	尾	原	伊	鈴	八	○	○	○
	国	久	原	原	木	野	木	戸	田	田	藤	木	木	木	木
	士	原	原	木	藤	木	田	村	藤	藤	木	木	木	木	木
	館														
	大														
	学														

本塾対國士館大学対抗試合

九月二十四日	於
國士館大學	

○ 桜松 鈴羽 加加 古山 塚木 檫進 中高 熊藤 小稻 大西 西
 田葉 葉木 鳥藤 藤藤 屋田 本下 崎藤 島橋 谷原 林留 城島 島
 直重 敏公 広順 大弘 正喜 芳正 秀朝 良
 裕彦 安順 陽郎 平道 一榮 二明 憲隆 隆典 明幸 信
 内横 優内 大外 支内 合大 引引 優合 関節 縱四 崩上 四方
 股方 勢股 股股 外刈 内刈 技技 分分 勢勢 技技 分分 勢勢 送足 扌引 分分 勢勢
 ○○廻藤 藤藤 藤 稲三 三芦 田田 田田 田田 田 村中平平平平 藤
 原原原原田上上田中中中中中中中中上島野野野原(文)

先鋒	審判	大將
○ 鈴羽 岡 稲 梫進 大高 進	八段	稻宮 田瀬戸口
林木 鳥田 留原 城橋 藤	八段	波本 村田
正重 雅秀 芳朝 正大	細川 久州男	唯圭 信昌
典利 順博 明隆 幸憲 二(2)	菊池 揚二	弘一 雄新
(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	6	
払引釣引合優引引優引 腰分腰分技勢分分勢分	八段	背負投引分引分 崩上四方 優勢
	10	
牛藤 宇津牛 宇津牛 豊田 早稻 大滝 於講道館	八段	○柴音斎水の江廻
窪原 原木 野田 田田 沢田 忠夫	三郎	田成
邦正 房謙孝 正正		
久久 夫四郎 昭幸 伸初		

第二十一回早慶対抗柔道戦

大将 副将

○ 檢見崎 小林
 宮 稲 稲 松 岡 塚 加 鈴 田 古 古 木 山 山 山 桜 瀬 戸 西 島 檢見崎
 本 波 田 葉 田 本 藤 木 村 屋 屋 下 田 田 田 田
 圭 唯 直 広 重 信 敏 順 公 昌 良
 一 弘 新 彦 勝 道 陽 安 雄 郎 一 平 裕 宏 信 栄
 (4) (4) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2)

引 引 引 扱 引 内 優 引 優 引 優 引 引 優 合 引 合 体 引 体 優
 分 分 分 腰 分 股 勢 分 勢 分 勢 分 分 勢 技 分 技 落 分 落 勢

中堅

○ 白 和
 高 熊 樹 松 此 此 須 須 須 須 针 针 石 渡 秋 鈴 高 加 渡 渡 安 白
 橋 井 沢 木 松 松 賀 賀 谷 谷 川 辺 元 木 野 下 辺 辺 辺 井 松 松
 良 憲 憲 豊 孝 正 栄 庸 明 明 孝 和
 雄 治 昭 二 一 實 治 一 篤 豊 久 人 寛 明 久
 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

優秀選手

本 基 早 稲 田 渡 辺 寛 此 松 孝 一 須 賀 実

位陣の層の厚い早稲田に押し切られてしまつた。この結果、対戦成績四勝十六敗一不分。

副將 許
 中川 利
 良 彦
 (4)